けんぱくイベント　Kenpaku event

<イベントについて>
＊講堂で行うイベントは、基本的に定員200名(先着順)です。＊ 要申込 の表記がないイベントは申込不要です。＊ 有料 (材料費や保険料など)の表記がないイベントは無料です。＊ 要申込 のイベントは、原則として開催日の一ヶ月前から(一ヶ月前が休館日の場合は翌開館日から)電話もしくは受付カウンターで受け付けます。定員に達したら受付を終了します。イベントの日時や内容に変更が出た場合、その都度ホームページなどでお知らせします。＊「みんな」は、博物館の活動を応援してくださる皆さんと一緒に、協力してつくりあげる「みんなでつくるイベント」を指します。

[企画展「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」関連イベント]

- **防災イベント「消防車と煙体験」** 10/7(土)10:00～14:00　前庭　会津若松地方広域市町村圏整備組合 会津若松消防のみなさん　※煙体験してみませんか？いざという時に役立つ知識を身に付けよう！消防車もやってくるよ。
- **防災イベント「その時、君はどうする」** 10/7(土)10:00～15:00　エントランスホール　日本赤十字社福島県支部のみなさん　※『自分の命は自分で守る「ぼうさいまちがいさがし　きけんはっけん」』『大地震がくると暴れだす!?　あなたの家は本当に大丈夫？「おうちの中のモンスター！」楽しみながら、防災について考えてみよう。
- **防災イベント「降雨体験」** 10/21(土)10:00～14:00　前庭　国土交通省北陸地方整備局阿賀川河川事務所のみなさん　※降雨体験車がやってきます。時間雨量を体験しよう！雨具を着用しても濡れることがありますのでご了承ください。
- **防災イベント「マイ避難推進講座」** 10/21(土)10:00～15:00　エントランスホール　福島県危機管理課のみなさん　※マイ避難推進員と共に災害への備えについて話し合い、マイ避難シートを作成してみよう！
- **展示解説会** 有料　企画展観覧料　11/3(金･祝)13:30～14:00　企画展示室　当館学芸員
- **講演会　「川と人の物語」** 11/5(日)13:30～15:00　講堂　鈴木克彦(当館元学芸員)･筑波匡介(当館学芸員)　※奥会津の川に関わる暮らしを中心に、新潟県中越地震被災地の事例と重ねて、災害と山の暮らしを考えます。
- **災害分野講座　「災害とミュージアム」** 11/11(土)13:30～15:00　講堂　内山大介(淑徳大学教授)　筑波匡介(当館学芸員)　※東日本大震災を伝える施設が被災地で活動を開始しています。災害をどのように伝えているのか、博物館はどのように伝えるのか考えます。
- **防災イベント「そなえる･ふくしま出前講座」** 11/18(土)10:00～12:00　エントランスホール　福島県危機管理課のみなさん　※もしも災害がおきたらどうする？自分事として一緒に考えてみよう！

[キッズ･ファミリー向けイベント]

- **会津短大生とあそぼう** 10/1(土)10:00～12:00、12/9(土)13:00～14:30　なんだべや　会津大学短期大学部幼児教育･福祉学科　あそびサークルのみなさん　※あそび(昔のおもちゃなど)を用意して皆さん待っています。絵本もたくさんあるよ。
- **博物館でもよみきかせ** 10/14(土)、11/11(土)、12/9(土)10:30～11:30　なんだべや　※10月は坂下読み聞かせの会のみなさん、11月はハーモニーのみなさん、12月は会津大学短期大学部のみなさんです。けんぱくならではのお話しや体験を用意してお待ちしています。

[見たい!知りたい!楽しみたい!　多彩なイベント]

- 美術講座 **神になった人々 菅原道真と保科正之** 10/1(日)13:30～15:00　講堂　佐藤弘夫(東北大学名誉教授)　※人が神になる！その背景にある世界観についてお話しいただきます。
- 民俗ミニ映画界 **記録映像で見るふくしまの暮らし** 10/22(日)10:30～12:00　講堂　民俗分野学芸員　※名作「奥会津の木地師」ほか、山の暮らしとものづくりの映像を上映します。
- 博物館講座 **三の丸から講座①「三の丸誕生」** 10/22(日)13:30～15:00　講堂　高橋充(当館副館長)　※「若松城三の丸物語」の第1話。学芸員の話を聞いて、若松城について語りましょう！
- 美術講座 **美術放談第3回「神様と殿様」** 10/28(土)13:30～15:00　講堂　小林めぐみ、塚本麻衣子(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)　※神様に祈った殿様、神様になった殿様。気になる神様と殿様の関係について放談します。
- 民俗講座 **テーマ展「地域に生きた民間宗教者」解説会** 11/5(日)11:00～11:30　展示ロビー　山口拡(当館学芸員)　※あなたの近くにもいる？知られざる民間宗教者の世界をご紹介。
- 考古学講座 **会津大塚山古墳をつくろう** 要申込　定員10名　有料　300円　11/12(日)10:00～12:00　実習室　平澤慎(当館学芸員)　※会津大塚山古墳の模型をつくってみよう！お子様でもつくることができます。
- 後援講座 **会津史学会歴史文化講演会「幕末会津藩の国事周施」** 11/12(日)13:30～15:00　講堂　白石烈さん(宮内庁書陵部編集課主任研究官)
- 考古学講座 **歩いて学ぶ会津大塚山古墳** 要申込　定員20名　有料　50円　11/23(木)10:00～15:00　会津大塚山古墳　平澤慎(当館学芸員)　小雨決行。荒天や積雪した場合は中止します。
- 博物館講座 **三の丸から講座②「文化の華開く若松城」** 11/25(土)13:30～15:00　講堂　高橋充(当館副館長)、小林めぐみ(当館学芸員)、川延安直(当館専門員)
- 美術講座 **藁に親しむワークショップ～楽しく学ぼうわら細工** 要申込　定員15名　12/2(土)13:30～15:00　なんだべや　大里正樹･山口拡･西尾祥子(当館学芸員)　※初心者でも大丈夫！お正月を前に、簡単なしめ飾りやわら細工を作りましょう。
- 博物館講座 **三の丸から講座③「知られざる三の丸の昔と今」** 12/9(土)13:30～15:00　講堂　藤原妃敏(元当館学芸課長)･高橋充(当館副館長)･栗原祐斗(当館学芸員)
- 特別講座 **詩人のいる博物館②** 【講堂】申込不要 200名、【オンライン】 要申込　定員100名　12/23(土)13:30～15:30　講堂　和合亮一さん(詩人)･佐々木英明さん(三沢市寺山修司記念館館長)　※作家やアーティストは、社会的課題や困難に直面したとき、いかなるアクションを起こし作品を作り上げるのかをご紹介頂きます。

三の丸からプロジェクト 体験型プログラム

[お申込み方法]　①武家文化体験　電話もしくは受付カウンターでお申込みください。(受付時間9:30～17:00)開催日の一ヶ月前より受付。②ものづくり文化体験　申込期間(11/1～11/21)中に往復はがき又はメールにて受付。応募多数の場合は抽選。詳細はチラシ又は当館HPをご覧ください。

■ 武家文化体験「刀剣取扱い講座」 要申込　①･②各回定員6名、③定員5名　11/4(土)①手入れ講座10:30～11:15、②手入れ講座13:30～14:15、③刀剣に関する相談会15:00～15:45　なんだべや　刀匠　藤安将平さん(藤安鍛刀場)　※刀剣のお手入れ方法を刀匠がご紹介します。

■ 武家文化体験「松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ」 要申込　各回定員20名　有料　1,000円　11/19(日)①11:00～、②13:00～、③14:00～(各回40分程)　なんだべや　茶道石州流宗家会津支部のみなさん　※この日一日「なんだべや」は茶室にかわります。会津藩が奨励した武家茶道を体験してみませんか？

■ 武家文化体験「武士が愛したかそけき音色･七弦琴に触れる」 要申込　各回定員10名　無料　10/9(月･祝)①10:30～11:30 ②13:30～14:30　なんだべや　琴士 飛田立史　※楽器に触れられる貴重な機会です。歴史を感じるかそけき音色にチャレンジしてみませんか？

■ ものづくり文化体験「カラムシの繊維でコースターを織ろう！」 要申込　各回定員2名　有料　1,500円　12/10(日)①12:00～、②12:30～、③13:00～、④13:30～、⑤14:00～、⑥14:30～、なんだべや　奥会津昭和村振興公社のみなさん　※昭和村の草木で染めたカラムシを見て、触れて、昭和村の自然そして人々のていねいな手仕事を感じてください。

■ ものづくり文化体験「会津木綿でブックカバーとしおりをつくろう」 要申込　各回定員10名　有料　1,200円　12/16(土)13:30～15:00(90分程度)　なんだべや　田崎薫さん(株式会社はらっぱ)　※柄を選ぶのも楽しい会津木綿。読書も楽しくなりますよ。

【10～12月のポイント展】

＊ポイント展は、収蔵品を中心に、特別に公開する資料などを1点から紹介する小規模展です。

- ●軍事郵便が繋いだ絆　～10/13　※兵士が家族に伝えたかった想いとは。
- ●みんなの震災遺産　～10/15　※震災遺産から気づいたことや学んだことから、もしもの時にできることを考えておこう！
- ●山川艶―会津藩家老山川家を支えた女性―　～11/17　※山川浩や健次郎、捨松を育てたお母様はどんな人？
- ●古代官道をゆく　～11/26　※古代ふくしま人とふくしまで焼かれた古代の器、それぞれの旅路をたどります。
- ●山頂の前期古墳ー会津若松市堂ヶ作山古墳ー　10/7～12/17　※会津若松市内にある「堂ヶ作山」の頂上につくられた古墳のナゾに迫ります。

2023年10月･11月･12月 イベントカレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
11月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

	日	月	火	水	木	金	土
12月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24/31	25	26	27	28	29	30

休館日　イベント開催日

Curator diary

観覧料

■常設展観覧料　一般･大学生280円(20名以上の団体は220円)
　＊文化の日11/3は、すべての方の常設展観覧料が無料です。
■企画展観覧料「伝える 災害の記憶ーあいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料ー」
　一般･大学生1,000円(800円)、(　)内は20名以上の団体料金。
　＊企画展チケットで常設展もご覧いただけます(企画展会期中有効)。
　＊高校生以下は常設展･企画展ともに無料です。
■年間パスポート　2,000円
　購入日から1年間、当館主催の企画展や常設展が何度でもご覧いただけます。

■JR会津若松駅から約3km
　・タクシーで約10分
　・まちなか周遊バス「ハイカラさん」で約20分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)
　・まちなか周遊バス「あかべえ」で約30分(鶴ヶ城三の丸口下車すぐ)

車椅子使用者用駐車場
・博物館西側「鶴ケ城三の丸口」バス停そば：2台
・一般駐車場内博物館入り口側：3台
※ご不明の点はお問合せください。

福島県立博物館
Fukushima Museum
開館時間9:30～17:00(最終入館は16:30まで)
お問い合わせ TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986
〒965-0807　会津若松市城東町1-25
HP https://general-museum.fcs.ed.jp　E-mail　general-museum@fcs.ed.jp

なじょなVol.17　10～12月号　2023年9月7日発行　発行／福島県立博物館

なじょな
Vol.17
2023
10月~12月号
福島県立博物館

exhibition

展覧会の関連イベントは最終頁をご覧ください。

あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料

伝える災害の記憶

関東大震災は近代化が進む都市を襲いました。社会的な衝撃は想像を絶するような災害でした。
関東大震災から100年が経過した令和5年秋の企画展として「伝える　災害の記憶－あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」を開催します。
東日本大震災を経験している福島県の記録でもある震災遺産をあわせてご紹介し、後世の方に災害を「伝える」とはどういうことなのか、当事者であるみなさんと一緒に考えたいと思います。
また災害から自分の身を守るために、私たちができる事を考えるきっかけとなるように、防災イベントも開催いたします。お子さんから、シニア世代まで一緒に学ぶことができるイベントです。これを機会に我が家のそなえを考えていただければと思います。「錦絵」や「かわら版」などの資料が多く展示されます。かつては庶民向けに普及し当たり前のように身近にあったものですが、今では貴重な歴史資料です。
関東・関西の資料も多く、県内ではなかなか目にする機会がない資料群です。
発生した災害を忘れないように、また次の世代が同じようなことにならないようになど様々な思いが資料に込められているのかもしれませんね。
当時のメディアを使って伝えたかったことはなんなのか、資料から読み取ってみてください。

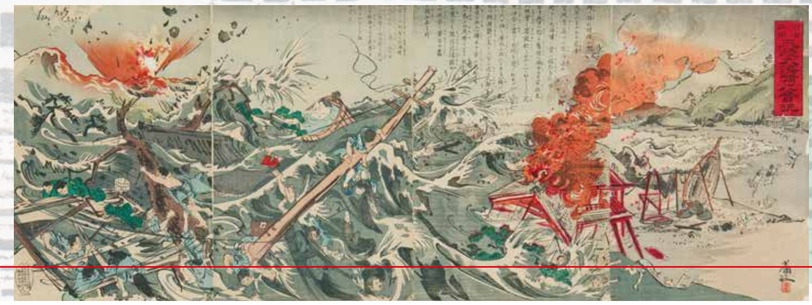
会期／2023年10月7日（土）～12月17日（日）

前期10月7日（土）～11月12日（日）　後期11月14日（火）～12月17日（日）

＊会期中に一部展示替を行います。

会場／福島県立博物館 企画展示室

※一部の資料は、お手持ちのスマートフォン等による音声ガイドをご利用いただけます（QRコード）。利用ご希望の方はイヤホンをご持参ください。



あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料

同和火災海上保険株式会社の初代社長である、廣瀬鉞太郎氏が大正後期から戦前にかけ収集した1400点あまりの資料群です。収集の開始時期は廣瀬氏が共同火災保険株式会社の関東営業部長であった頃とされており、大正12年（1923）に関東大震災（大正関東地震）が発生し、火災保険金の支払い問題で営業責任者として処理にあたりました。火災保険の営業という廣瀬氏の職務上、過去の災害に関心をもつことは自然なことであったと言えるのではないでしょうか。

＊：小林清親「火災の図」部分　背景作品：「新板京絵図」部分

どこが出火元かな？火災当時の風はどちらから吹いていたのでしょうか？

天明8年（1788）に京都で発生した天明の大火の延焼範囲をご紹介。当時の京都市街の8割が灰になったともわれています。京都御所は燃えてしまったのでしょうか？

「新板京絵図」天明8年（1788）木版墨摺

大工さんはなぜ鯰のしたためた書が欲しいのでしょうか？

鯰が筆でしたためた書を大工や左官が「ありがてえ」と受け取っています。江戸時代、大鯰が動くと地震が起きるという考え方がありました。よく見ると障子にも人影が…

「鯰筆を震」　安政2年（1855）カ　錦絵

福島県立博物館　令和5年度秋の企画展

「大合戦図」安政2年（1855）カ　錦絵、三枚続

なぜ鯰が戦っているの？

安政2年（1855）に安政江戸地震が発生し、大きな被害を受けながらもそれをききっかけに活気づく人々の姿が力強く描かれています。よく見るといろんな人が合戦に参加しているよ。

15時27分が示すのは？

海岸から400mほどの距離にあったいわき市立豊間中学校体育館にあった時計。校舎は津波によって浸水し、停電になりました。

いわき市立豊間中学校体育館の時計　いわき市（当館蔵）

届けられなかった新聞が伝えるものとは何でしょうか？

浪江新聞センターの店内に置かれたものです。チラシが折り込まれ、あとは配達を待つのみとなっていた新聞です。

配達準備が整った新聞　浪江町（当館蔵）

この絵を見て当時の人々は何を思ったのでしょうか？

震度2～3程度の小さな地震の30分後に巨大津波が三陸沿岸を襲いました。不意の津波に翻弄される人々、必死に木につかまろうとする人々…。津波の被害が即座に描かれ、多くの人に被害の大きさを伝えました。

小国政「明治丙申三陸大海嘯之実況」　明治29年（1896）　錦絵、四枚続

※当館蔵以外の作品は、全てあいおいニッセイ同和損保蔵

「若松の大火」と呼ばれる、文久元年の火災の被害とは

ポイント展「若松が大変！城下町と災害」

会期／9月30日（土）～11月26日（日）
会場／総合展示室　近世

「火事と喧嘩は江戸の華」といいますが、江戸時代の若松にも火災の記録がたくさん残っています。今回中心に展示をする「文久元年三月並六月の若松大火絵図」は、文久元年に起きた火災に関する記録で、被害の範囲と出火元が絵図に記録されています。現在と比べて消火の方法も限られており、時には外堀や川を越えて燃え広がってしまいました。特に木造の建物が密集している城下町では、一度火事が起きると広がりやすかったようで、時には1000軒を超える被害の火災もありました。火事の恐ろしさを、ぜひ実感してください。

文久元年三月並六月の若松大火絵図

◆◆担当学芸員に聞いてみました◆◆

Q　昔は消火方法が違ったんですね。どんな方法だったんですか？

A　今は水を使った消火が中心ですが、昔は、破壊消防、といって、火が燃え移る前に近くの建物を壊していました。火が燃えさかる中、どんな道具を使っていたのでしょうか。ぜひ展示をご覧ください。
大きな火事があった後には、生活を建て直すための材木やお米、お金などが藩から支給されましたが、家が燃えてしまった人だけでなく、消火のために家を壊されてしまった人も支給の対象になっていたようです。

Q　火事の原因になった人は、その後どうなったんですか？

A　火事の原因によっては厳しい罰が定められた記録もあります。
誤って火事を起こしてしまった人も、火災の被害によっては屋敷の没収、借家に住んでいる場合は家を追い出されるなど、かなりきびしい罰が定められました。
不注意で火事を起こすことがないように、特に風の強い時期には、火の用心が何度も呼びかけられました。
文久元年の火事で出火元となった、家老の横山主税から姉に宛てた手紙の写しが残っています。
当時江戸にいた横山は、火事の様子を手紙で知り、土蔵後ろの小屋から出火している点など、火元が怪しいことを気にかける様子が見られます。
この火事に関する詳細な記録は今のところ見つかっていないため、横山や会津に住む姉たちが最終的に処罰を受けたかどうかはわかっていませんが、放火も疑われていたようです。

発災から100年の節目に振り返ろう

ポイント展「写真でみる関東大震災」

会期／開催中～12月17日（日）
会場／総合展示室　近・現代

令和5年（2023）は、大正12年（1923）9月1日に発生した関東大震災から100年の節目となります。地震の震源は相模湾北西部で、東京や神奈川を中心に甚大な被害をもたらしました。本展では、発災から復興までの間に流布した写真や絵葉書などから被災地の様子や復興の様子を振り返ります。

昭和天皇に東京の復興を説明する市長・堀切善次郎（復興天覧一部分）　個人蔵・当館寄託

東京・日本橋写真　当館蔵

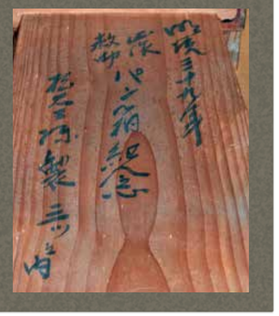
「災害をテーマにしたポイント展をピックアップ！」
企画展とあわせてご覧ください。
※全て常設展料金でご覧いただけます。

災害を伝えるための民具とは？

ポイント展 民具が伝える災害の記憶

会期／10月7日（土）～12月17日（日）
会場／総合展示室　近・現代

伊達市旧梁川町周辺は明治38年（1905）夏の冷害・凶作、翌39年（1906）の大霜に相次いで災害に見舞われました。
この展示では、災害の記憶を子孫へと伝え残すという目的のもとに作られた、一風変わった民具を紹介します。これが何かは、ぜひ会場でご確認ください。



災害とその後の支援を記念する墨書

10～12月のテーマ展
「三島町荒屋敷遺跡を考える」（開催中～10月22日　部門展示室　考古）「祈りのふくしま7－会津の神様　小平潟天神と土津神君－」（開催中～11月26日　部門展示室　歴史・美術）「よみがえる会津大塚山古墳」（10月31日～2024年3月31日　部門展示室　考古）「地域に生きた民間宗教者」（10月31日～12月17日　展示ロビー）
「四季のうつろい」（12月2日～2024年1月28日　部門展示室　歴史・美術

a la carte